

令和6年度 香川県総合教育会議

香川県教育大綱の主な取組状況

 香川県教育委員会

目 次

1 学力の育成·····	1
2 心の育成·····	5
3 体の育成·····	11
4 郷土を愛し、郷土を支える人材の育成·····	16
5 安全・安心で、魅力あふれる学校づくり·····	19
6 家庭や地域での学びの環境づくり·····	21
7 スポーツの振興·····	23
8 文化芸術に親しむ環境づくり(文化芸術による地域づくり)·····	25

1 学力の育成

令和6年度の主な取組み

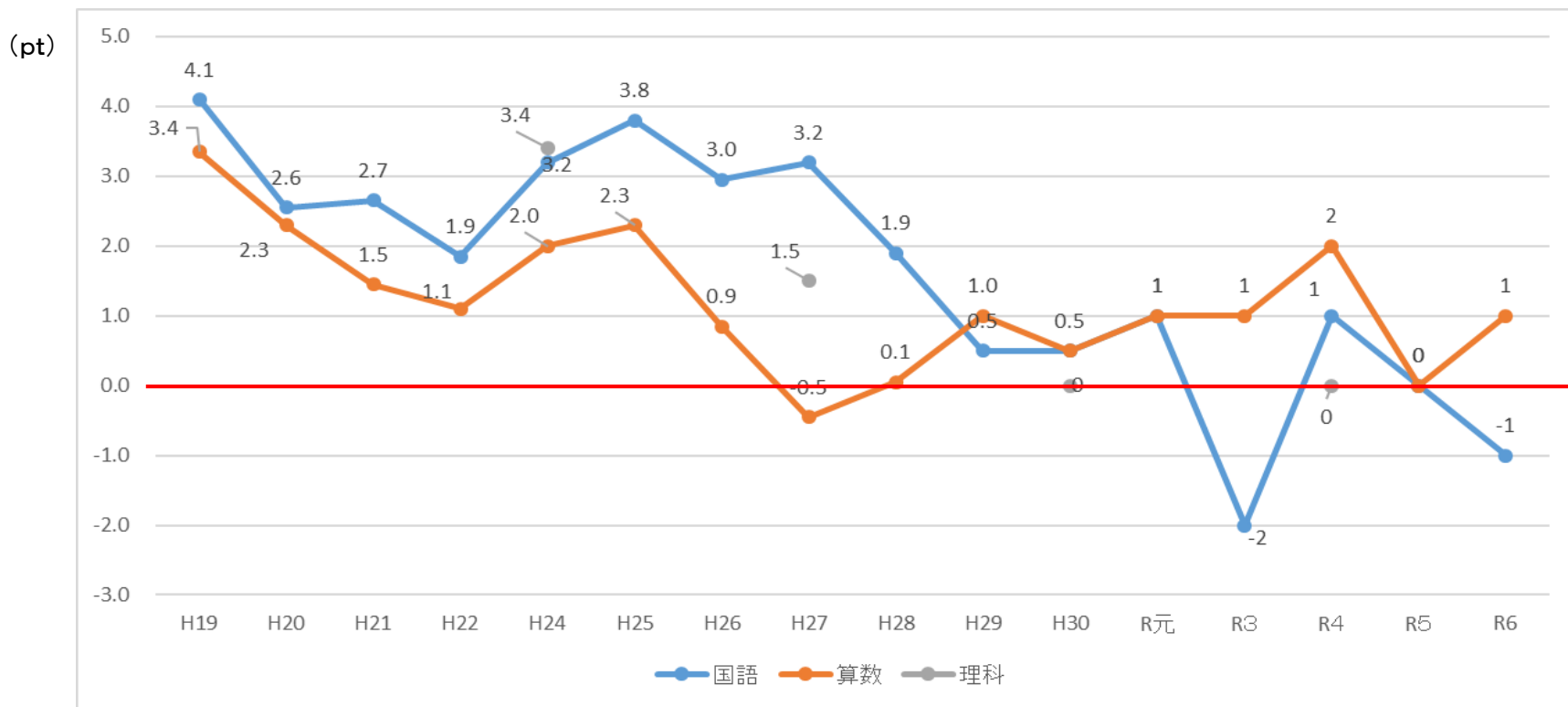
確かな学力の育成と個に応じた教育の推進

①	確かな学力の育成	・小・中学校全学年での35人学級の実施、小学校高学年での教科担任制の推進 ・児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実と学ぶ意欲・学習に向かう態度の育成
②	読解力の育成	・推薦図書「香川の子どもたちに贈る100冊」の活用推進
③	ICTを活用した教育の推進	・1人1台端末を活用した教育の推進 ・県立学校へのICT支援員の派遣 ・3年に分けて、県立学校の普通教室へ電子黒板の整備
④	小・中・高等学校を通じた外国語教育の推進	・英語指導力向上事業などによる外国語教育の充実 ・県立高校等へのALTの配置
⑤	幼児期の教育の推進	・幼児教育スーパーバイザーによる指導・助言 ・「かがわ幼児教育支援センター」において、幼稚園・保育所・こども園の研修を推進 ・家庭教育推進専門員による親同士の学びを取り入れたワークショップの開催
⑥	特別支援教育の推進	・「多様な学びの場」での一人ひとりに応じた支援体制の充実 ・教職員の専門性の向上
⑦	校種間連携の推進	・幼小、小・中・高における連携・接続の推進 ・特別支援学校と各学校との連携・接続の推進

学力の定着状況①(小学6年)

全国学力・学習状況調査における全国と香川県の平均正答率の差の推移

※平成29年度以降の都道府県の調査区分ごとの平均正答率は、文部科学省から整数値が提供されている。



(注) 平成19年度から平成30年度は、A問題とB問題に分けて実施されていたが、表の数値は両者の平均で表している。
近年は、各都道府県の正答率の差が縮まっている。

全国学力・学習状況調査

当初は高い正答率を保っていましたが、平成27年度に初めて算数が全国平均正答率を下回るなど低下傾向が続いていました。児童の主体性の育成を重視した取組の推進により、令和4年度以降は、全国平均と同等で推移していますが、学習意欲の向上や学習習慣の形成を中心にさらに授業改善を進める必要があります。

学力の定着状況②(中学3年)

全国学力・学習状況調査における全国と香川県の平均正答率の差の推移

※平成29年度以降の都道府県の調査区分ごとの平均正答率は、文部科学省から整数値が提供されている。

(pt)



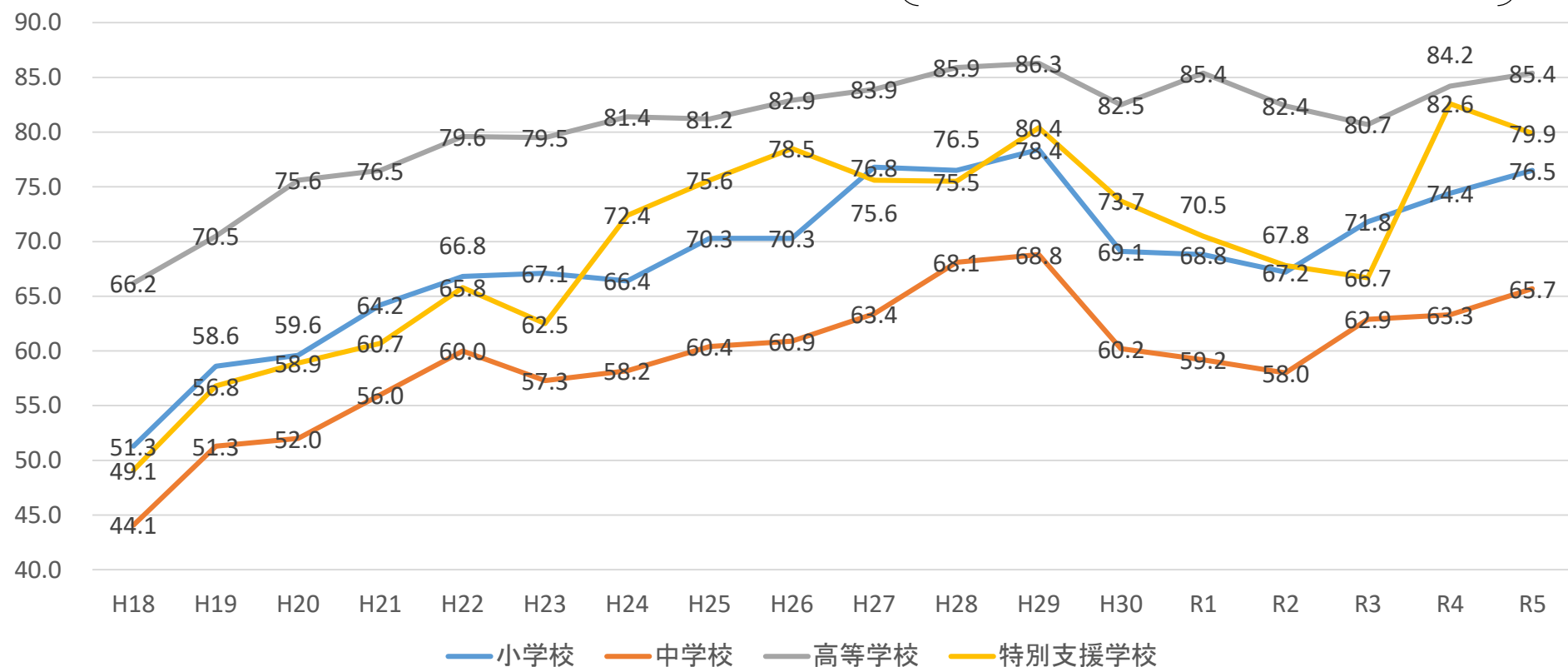
(注) 平成19年度から平成30年度は、A問題とB問題に分けて実施されていたが、表の数値は両者の平均で表している。
令和元年度から始まった英語の調査結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計している。
近年は、各都道府県の正答率の差が縮まっている。

全国学力・学習状況調査

当初は高い正答率を保っていましたが、平成24年度以降は、令和4年度に数学において大きく全国平均を上回ったものの、全国平均と同等で推移している教科が多くなっています。令和元年度、令和5年度と、英語については全国平均を下回っており、小・中学校の連携を強化しながら英語力を高めていく必要があります。

ICTを活用して 指導することができる教員の割合

パソコンや電子黒板などを活用して効果的な指導ができているかなどを教員に質問し、「できる」「ややできる」と回答した割合



※H30に質問の変更があり、単純比較はできない。

学校における教育の情報化の実態等に関する調査

全校種において徐々にICT機器の整備が進み、特に1人1台端末については、小・中学校及び特別支援学校小・中学部においては令和2年度末に、高等学校及び特別支援学校高等部においては令和4年度末までに概ね整備されたことにより、全体的には増加傾向がうかがえることから、ICT活用教育の効果的な推進に向けて、教員の更なる支援に取り組む必要があります。

2 心の育成

令和6年度の主な取組み

豊かな心、多様性を尊重する心の育成

①	道徳教育の充実	・ 考え議論する道徳の授業の充実 ・ 救急救命士等による「いのちのせんせい」出前授業の実施
②	自己肯定感・自己有用感の育成	・ 集団宿泊学習の実施方法の工夫等、体験活動の実施・充実
③	豊かな感性や情操の育成	・ 全国高校総合文化祭の開催準備 ・ 小・中学校における総合文化祭の開催支援 ・ 「高校生のための瀬戸内アートサマープログラム 2nd」を開催 ・ 「かがわ総文祭2025」にむけた文化部活動スキルアップ事業の実施
④	人権・同和教育の推進	・ 「LGBT等に関する教職員研修会」の実施 ・ 多様性社会に適応するための教職員研修や、児童生徒の参加体験型学習の実施

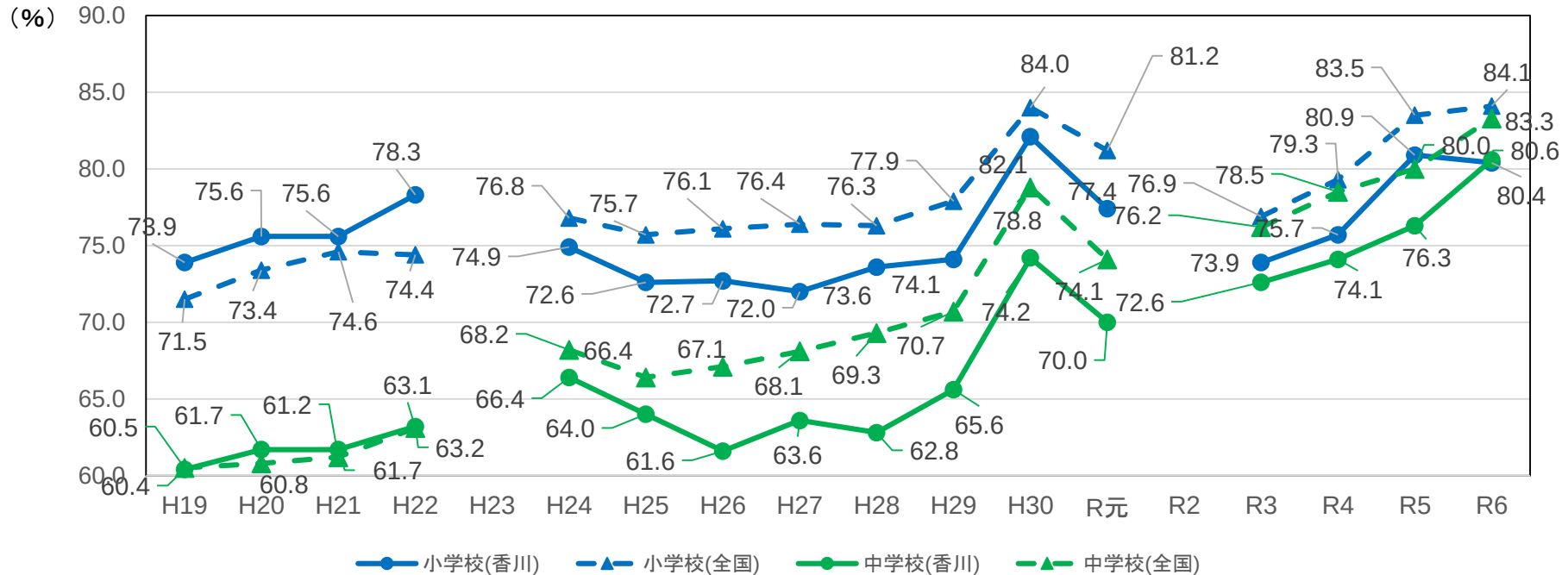
共感的理解に基づく生徒指導の充実

⑤	いじめや暴力の未然防止	・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用と資質向上 ・ 学校だけでは対応が困難な事案へのスクールサポートチームの派遣
⑥	不登校児童生徒への支援	・ 香川県不登校児童生徒支援協議会の設置 ・ 校内サポートルーム研究指定校事業の実施 ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを活用した相談・支援体制の整備
⑦	インターネット適正利用とネット・ゲーム依存予防対策の推進	・ 情報モラルの育成と有害情報対策等の推進 ・ ネット・ゲーム依存予防対策の推進

自己肯定感・自己有用感

問) 自分には、よいところがあると思いますか

肯定的に回答した児童生徒の割合

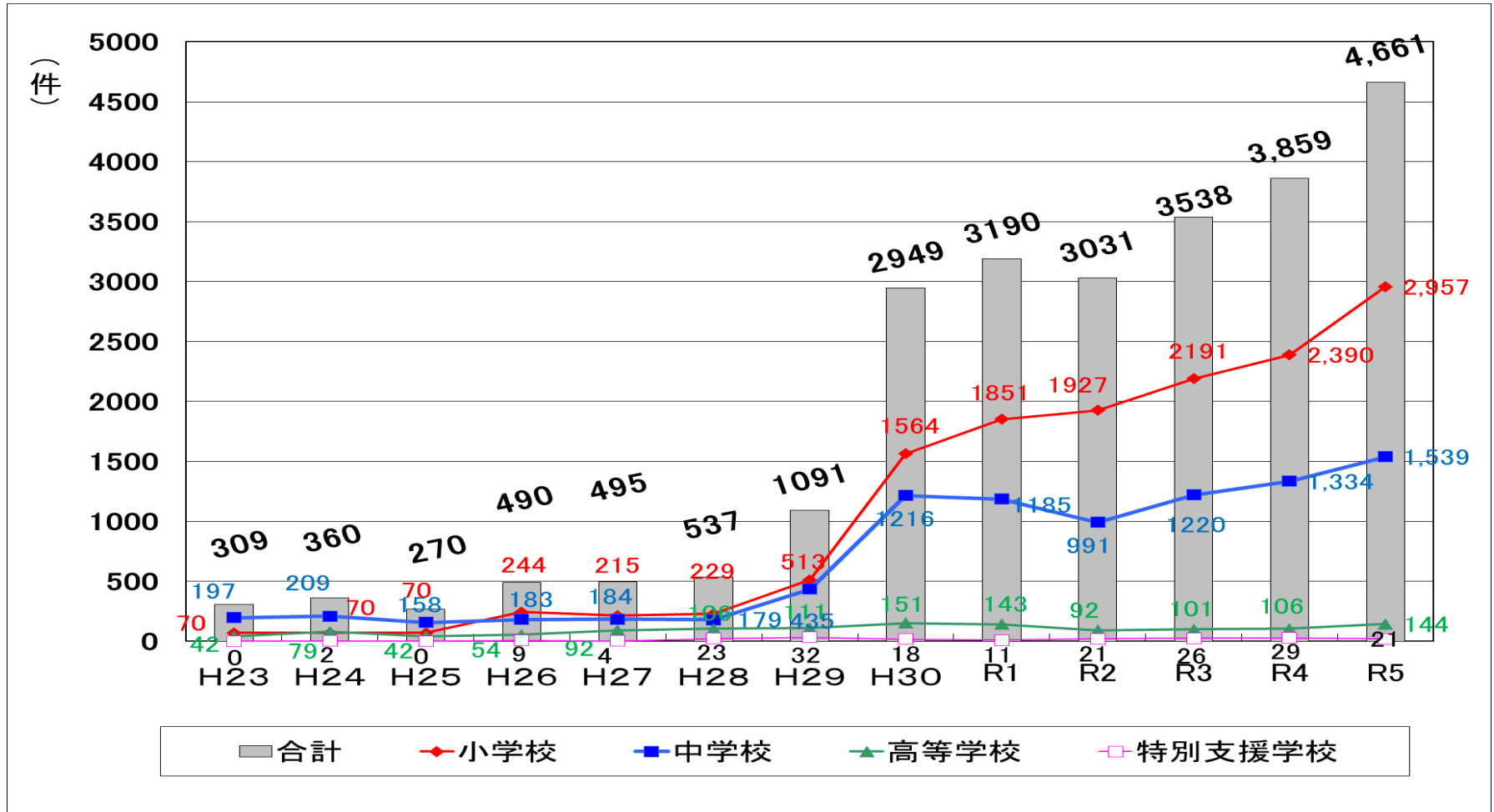


- ・平成19年度から、本調査開始。
- ・平成23年度は、東日本大震災の影響により調査無し。
- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査無し。

全国学力・学習状況調査

小・中学校とも、自発的・主体的な活動を促す指導により、肯定的な回答の割合は、全体的に上昇傾向にあるものの、依然として全国平均を下回っており、今後は取組を一層充実させる必要があります。

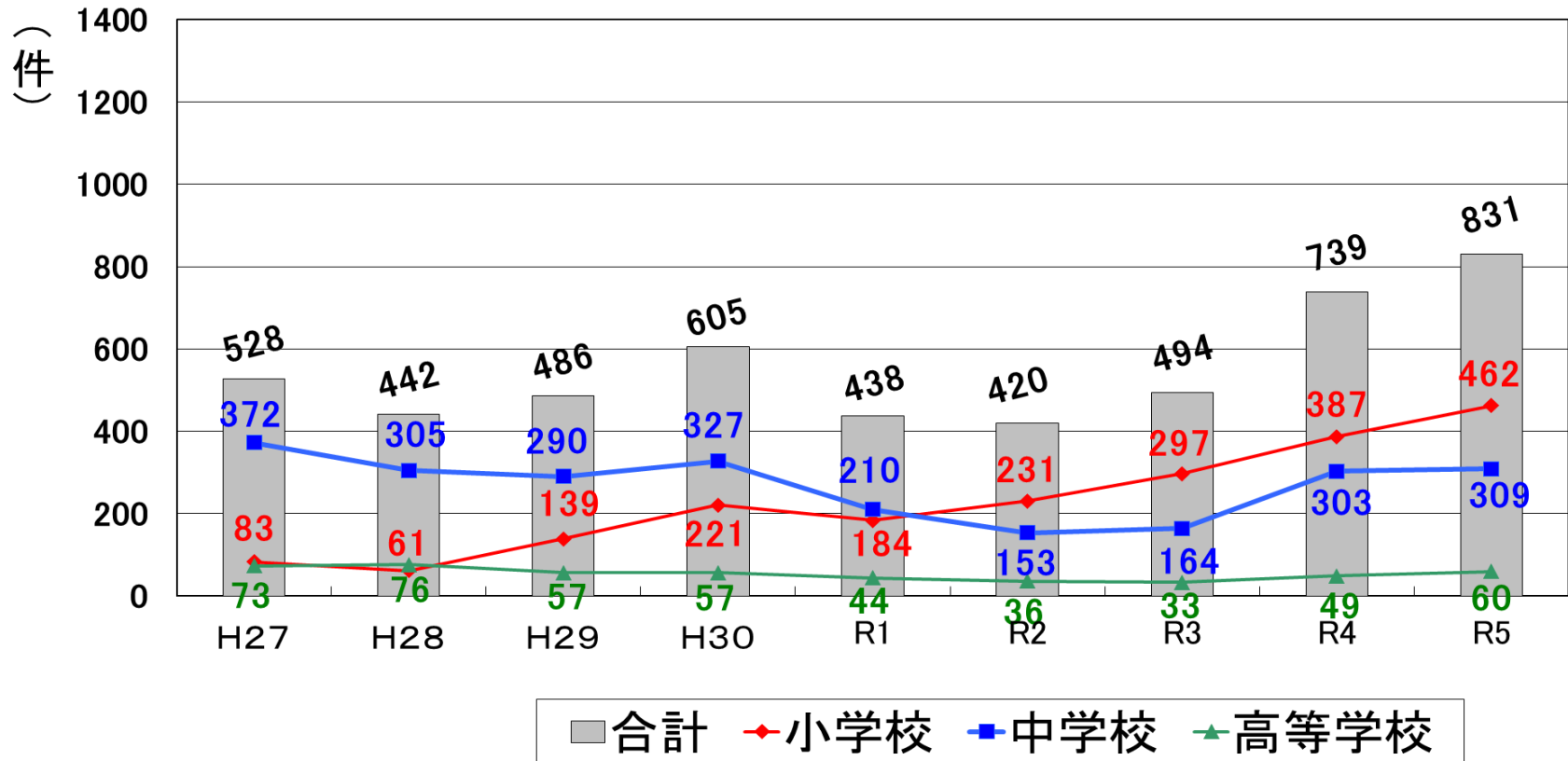
いじめ認知件数(国公立)の推移



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より作成
(いじめの認知件数については、平成23年度から公表)

全ての校種で増加傾向であり、要因としては、いじめの積極的認知に関する理解の広がり等によるものと考えられることから、市町教委ときめ細かに連携し、認知とその対応の促進に引き続き取り組む必要があります。

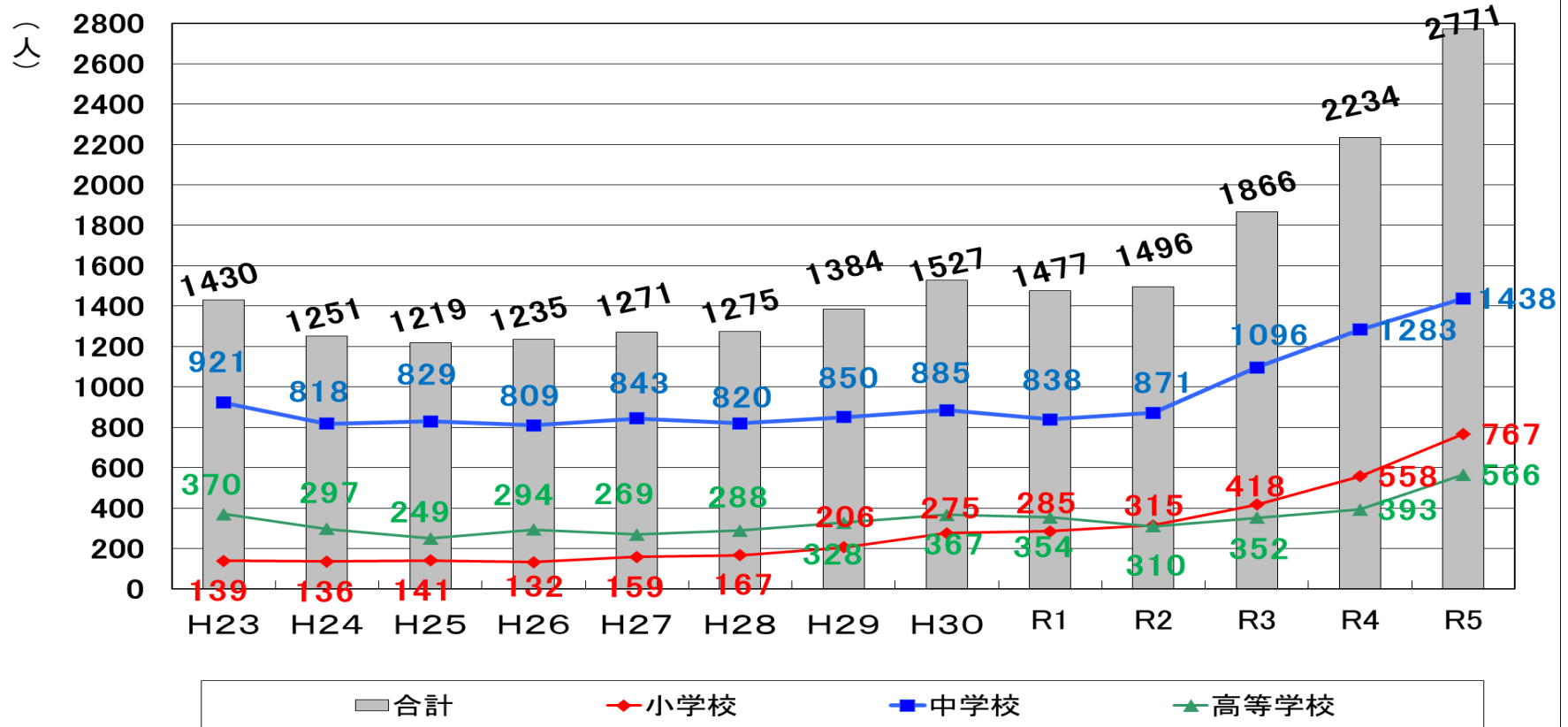
暴力行為発生件数(国公立)の推移



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より作成
(暴力行為の発生件数については、平成27年度から公表)

令和2年度以降、すべての校種で増加傾向であり、要因としては、感情のコントロールがうまくできず、ささいなことで暴力に至ってしまうケースや、同じ児童生徒が複数回暴力行為に及んでしまうケースの増加などが挙げられることから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携強化に、より一層取り組む必要があります。

不登校児童生徒数(国公立)の推移



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より作成
 (不登校児童生徒数については、平成23年度から公表)

全ての校種で増加傾向であり、法※の趣旨(不登校は問題行動ではない)の浸透による保護者の学校に対する意識の変化や、コロナ禍を経たことによる生活環境の変化から、生活リズムが乱れやすい状況があったこと等が考えられることから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を図り、その専門性を生かした支援について、引き続き推進していく必要があります。

※義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律(平成28年法律第105号)

ネット・ゲーム依存の傾向（H29（小学生除く）、R2、R3、R4、R6年度）

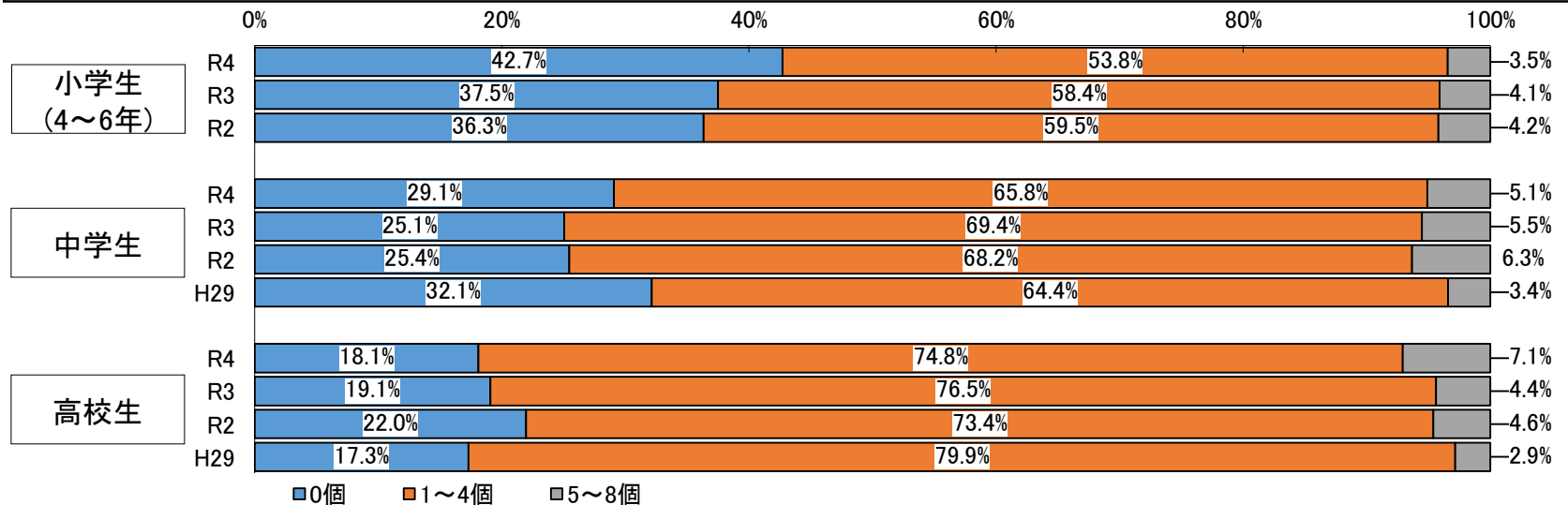
令和4年度 スマートフォン等の利用に関する調査（香川県教育委員会）

※自分のスマホ等を所有している、または家族所有のスマホ等を使用していると回答した生徒に対する質問

下記の8項目のうち、5項目以上に該当する場合、ネット・ゲーム依存傾向として注意が必要

- ① ネットに夢中になっていると感じる
- ② 満足を得るために、ネットの使用時間をだんだん長くしたいと感じる
- ③ ネット利用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとしたが、うまくいかなかったことがよくある
- ④ ネットの時間を減らしたり、完全にやめようとしたとき、落ち着かなかったり、不機嫌や落ち込み、またはイライラなどを感じる
- ⑤ 使い始めに思っていたよりも長い時間ネットを利用している
- ⑥ ネットのために大切な人間関係や学校のことを台無しにしたり、あやうくすることがある
- ⑦ ネットに熱中しすぎていることを隠すために、家族、学校の先生にウソをついたことがある
- ⑧ 問題から逃げるために、または、絶望、罪悪感、不安、落ち込みといったいやな気持ちから逃げるためにネットを利用する

（厚生労働省研究班による生活習慣についての全国調査（平成29年度）を基に香川県教育委員会で作成）



ネット・ゲームへの依存傾向にあると考えられる児童生徒が依然として数%程度存在しており、より一層、家庭でのルールづくりが促進されるよう、令和6年度調査の結果（今後公表予定）等も踏まえ、引き続き、利用状況等について注視しつつ、施策を推進していく必要があります。

3 体の育成

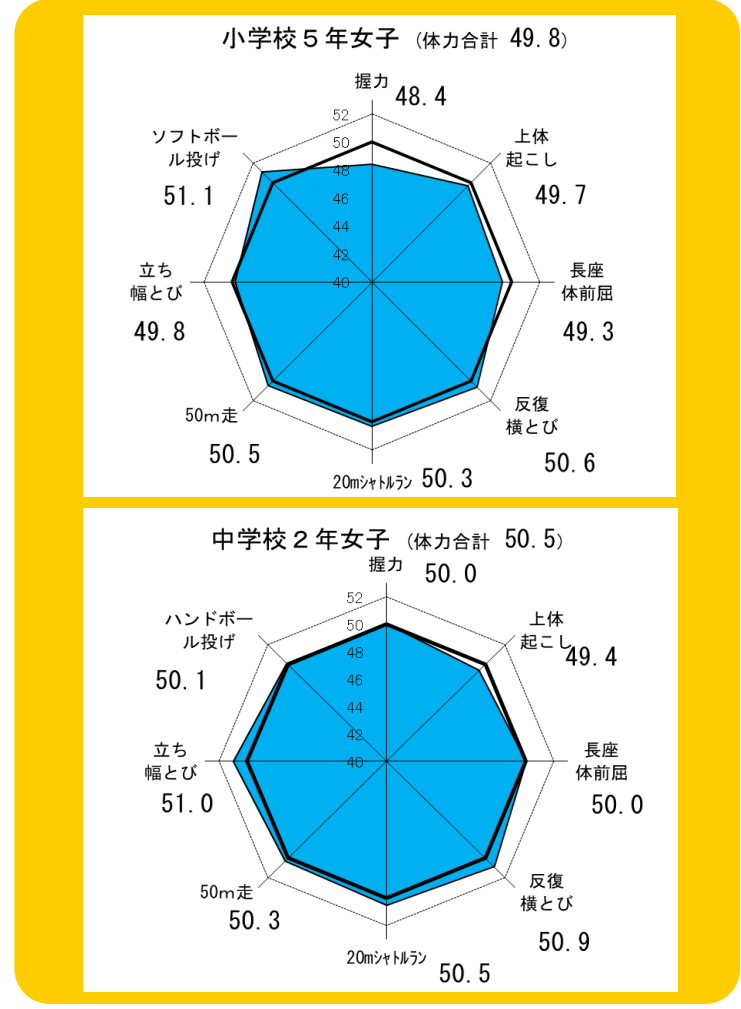
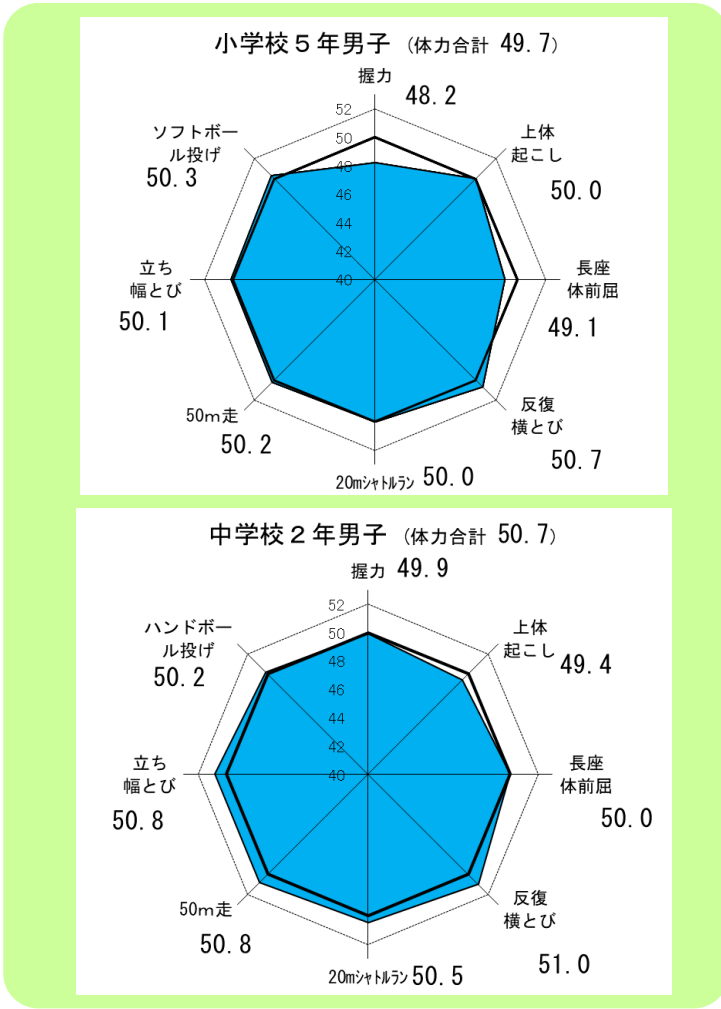
令和6年度の主な取組み

未来を支える健やかな体づくりの推進

- | | | |
|---|----------|---|
| ① | 体力づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none">・「あそびンピック in Kagawa」や「讃岐っ子パワーみんなでチャレンジ」等の取組みを通じた体力づくり活動の推進・児童生徒が主体的に体を動かす時間を確保できるような授業改善を図るための研修会の実施 |
| ② | 健康教育の推進 | <ul style="list-style-type: none">・生活習慣病の予防や多様な健康課題への対応のための研修会の実施・インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症等を踏まえた指導と感染症対策の徹底 |
| ③ | 食育の推進 | <ul style="list-style-type: none">・地場産物や季節の郷土料理を取り入れた給食を提供する「ふるさとの食再発見事業」の実施・栄養教諭等による教科等における食に関する指導 |

体力・運動能力(T-スコア※)(R5)

※県平均値が全国平均値(50)と比べて、どれくらいの位置にいるかを示した指標。

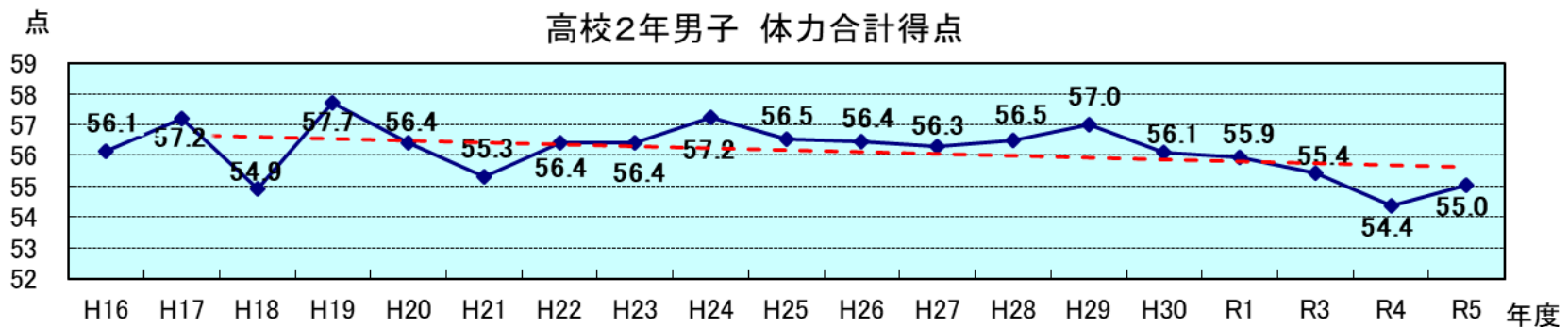
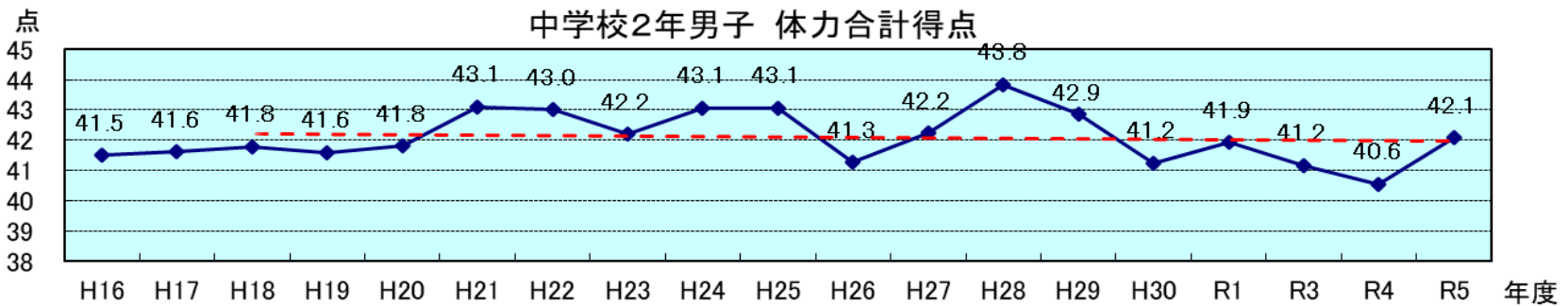
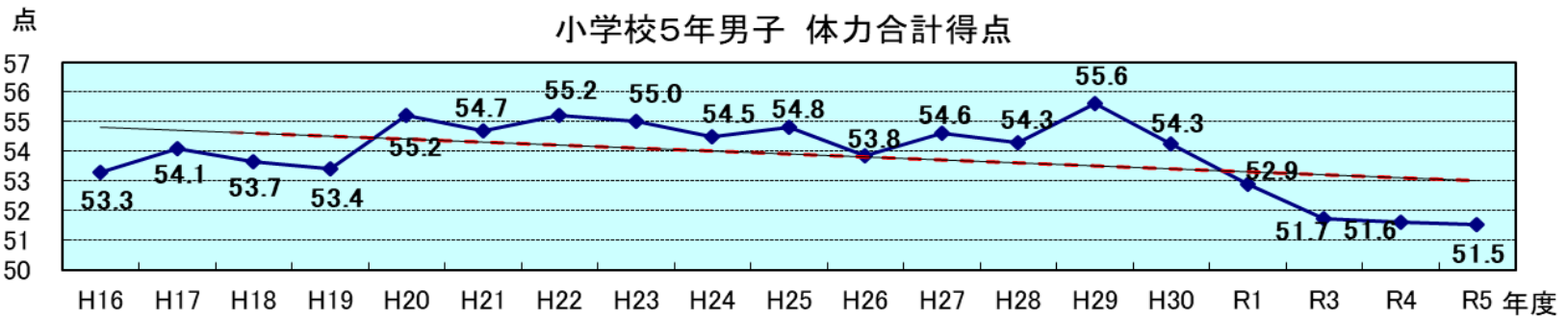


令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(全数調査)(R5.12月公表)

全国と比較すると小学校の男女ともに下回っており、今後は体育の授業を充実させるとともに、あそびンピック等を通して、運動の習慣化に向けた取組を進める必要があります。

体力・運動能力(体力合計得点の年次推移:男子)

● 香川県 - - - 香川県の近似直線(H15~R5)

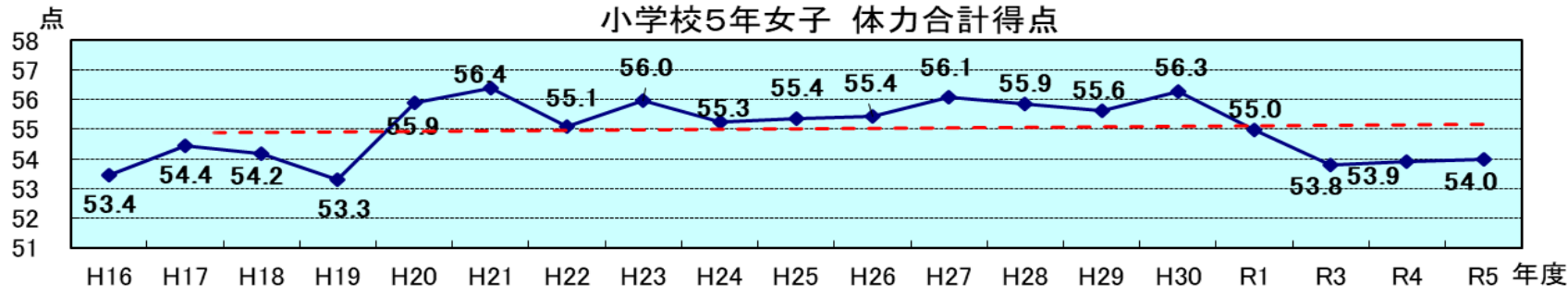


香川県体力・運動能力調査(全数調査)令和2年度は、調査中止

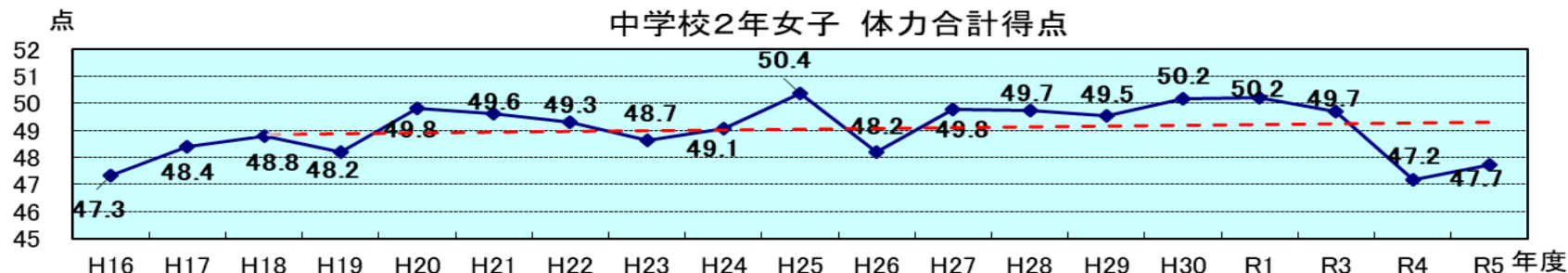
体力・運動能力(体力合計得点の年次推移:女子)

● 香川県 - - - 香川県の近似直線(H15~ R 5)

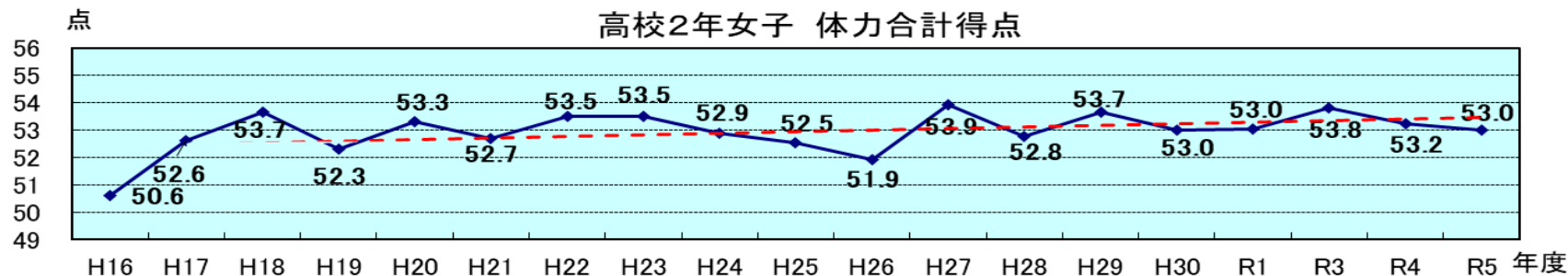
小学校5年女子 体力合計得点



中学校2年女子 体力合計得点



高校2年女子 体力合計得点



香川県体力・運動能力調査(全数調査)令和2年度は、調査中止

20年間で見ると、男女ともに令和元年度までは全体的にゆるやかな向上傾向ですが、直近で見ると、男女ともに低下傾向が見られます。コロナ禍における運動時間の低下が原因と考えられることから、今後は運動時間の確保に向けた働きかけに取り組む必要があります。

児童生徒の体格・肥満傾向(R4)

小学5年男子

体格(全国)

身長	138.8cm	(139.7cm)
体重	34.4kg	(35.7kg)
肥満傾向児	9.36%	(15.11%)
痩身傾向児	2.16%	(2.44%)

中学2年男子

体格(全国)

身長	160.7cm	(160.9cm)
体重	50.9kg	(50.6kg)
肥満傾向児	12.12%	(12.25%)
痩身傾向児	1.47%	(2.93%)

高校2年男子

体格(全国)

身長	169.2cm	(169.9cm)
体重	61.5kg	(60.7kg)
肥満傾向児	12.72%	(11.13%)
痩身傾向児	3.30%	(3.33%)

小学5年女子

体格(全国)

身長	140.3cm	(141.4cm)
体重	35.0kg	(35.5kg)
肥満傾向児	11.82%	(9.74%)
痩身傾向児	1.54%	(2.53%)

中学2年女子

体格(全国)

身長	154.3cm	(154.9cm)
体重	47.8kg	(47.7kg)
肥満傾向児	9.41%	(9.05%)
痩身傾向児	1.70%	(3.28%)

高校2年女子

体格(全国)

身長	157.3cm	(157.7cm)
体重	52.6kg	(52.1kg)
肥満傾向児	6.72%	(6.98%)
痩身傾向児	3.06%	(2.94%)

令和4年度 学校保健統計調査(R5.11月公表)

全国と比較すると、肥満傾向児は高2男子、小5女子、中2女子で上回っており、痩身傾向児は高2女子で上回っています。今後は、学校生活以外にも家庭と連携して生活習慣等の改善に取り組む必要があります。

4 郷土を愛し、郷土を支える人材の育成

令和6年度の主な取組み

郷土を支える教育の推進

- | | | |
|---|---------------|--|
| ① | 郷土に誇りを持つ教育の推進 | <ul style="list-style-type: none">・ 読本、副教材を活用したふるさとに誇りを持つ教育の推進・ ふるさと教材（かがわふるさと百人一首かるた）の活用 |
| ② | 社会に参画する力の育成 | <ul style="list-style-type: none">・ 模擬選挙の出前授業など、主権者教育の充実 |
| ③ | キャリア教育の推進 | <ul style="list-style-type: none">・ ジョブ・サポートティーチャーの配置・ 新規学卒者のための職場定着サポート |

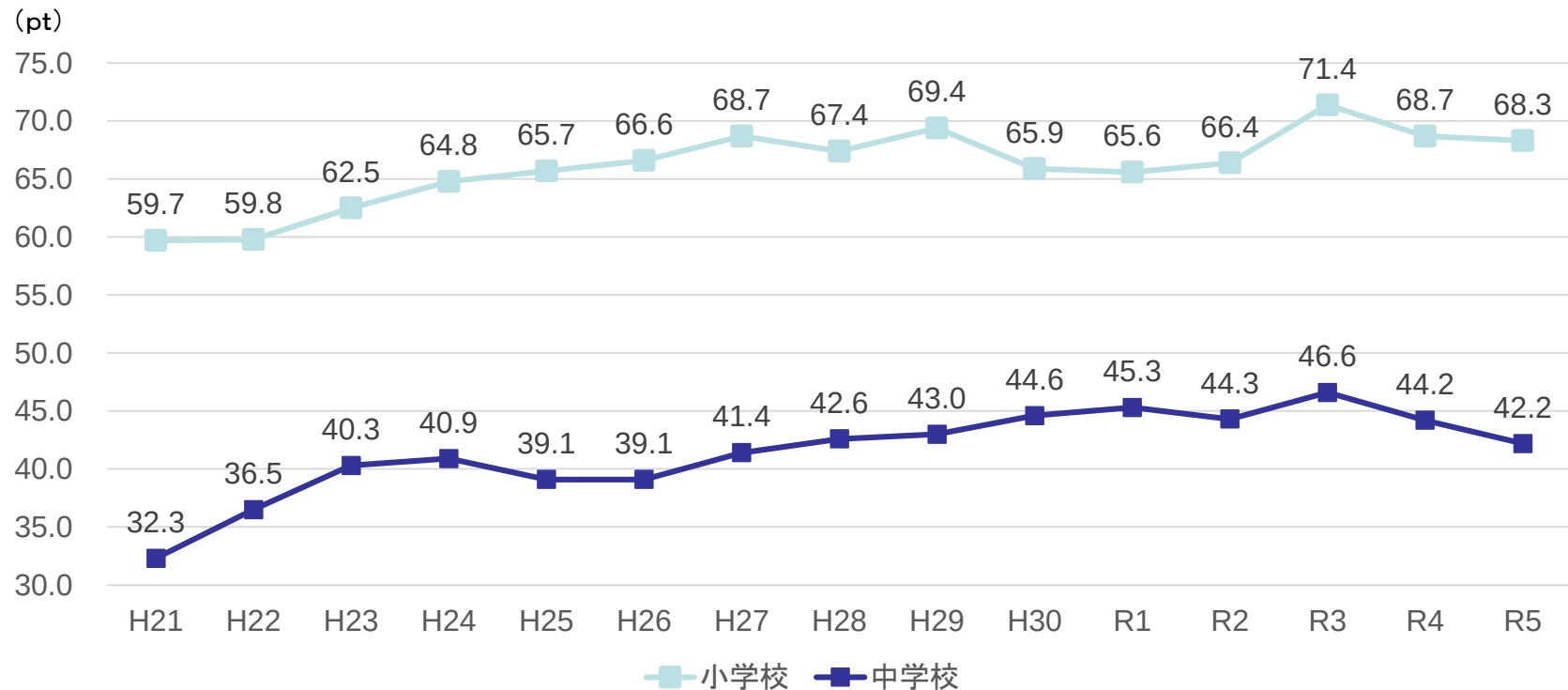
地域を担うグローバル人材の育成

- | | | |
|---|------------|--|
| ④ | グローバル人材の育成 | <ul style="list-style-type: none">・ 語学力やコミュニケーション能力、情報活用能力の養成・ 外国語活動や英語科の授業でのALT等との交流や、社会科、総合的な学習の時間等を通じた、外国の生活や文化の理解 |
| ⑤ | 課題解決能力の育成 | <ul style="list-style-type: none">・ 学校における総合的な学習（探究）の時間等の教科等横断的な学習・ 課題解決型ワークショップの充実等による、課題発見や分析、評価、解決等の課題解決に関わる資質、能力の育成 |

今住んでいる地域（香川県）への関心

問）今住んでいる地域（香川県）の歴史や自然、産業について
関心がありますか

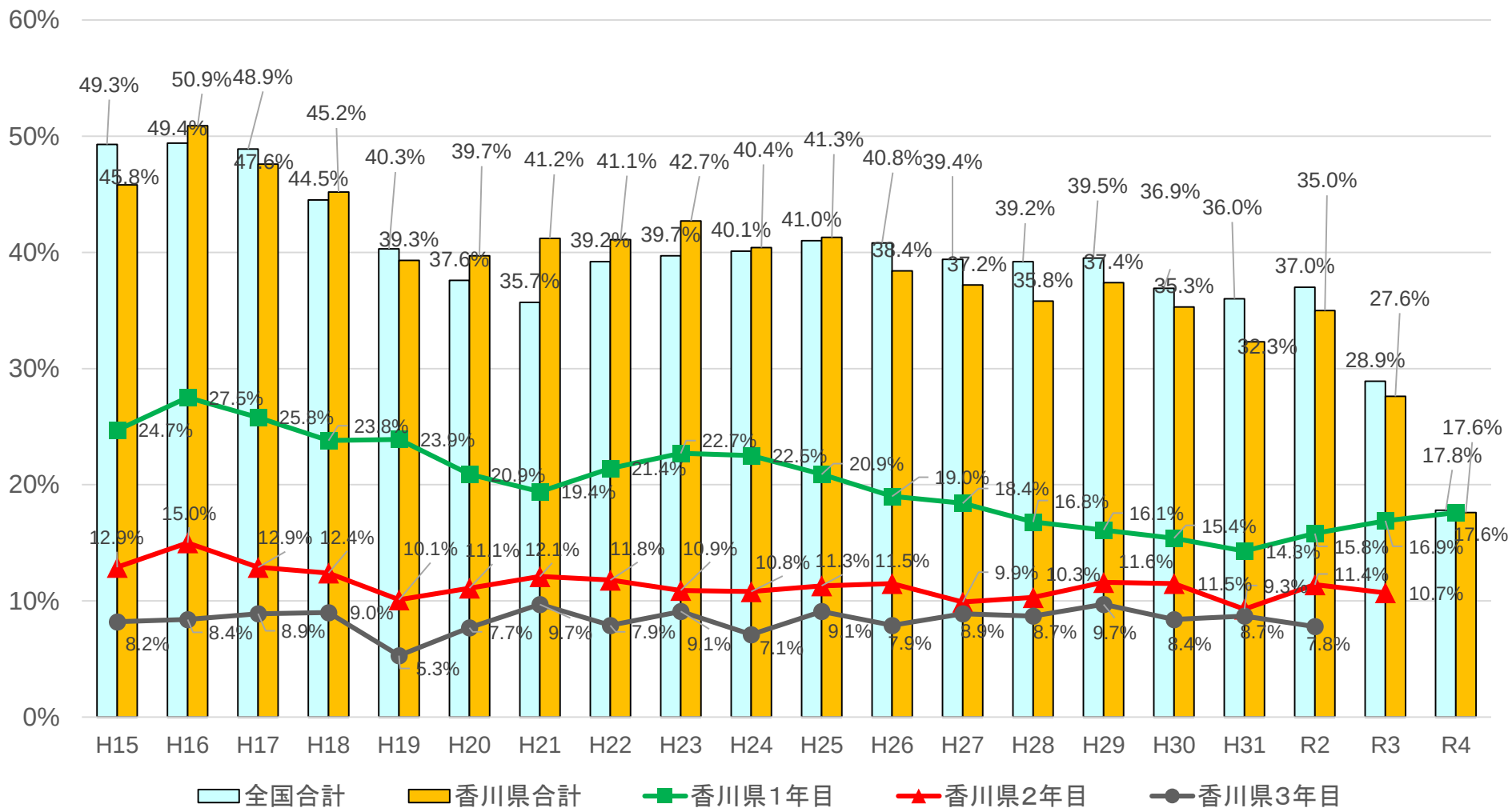
肯定的に回答した児童生徒の割合



県学習状況調査

令和3年度以降小・中学校とも減少傾向であり、引き続き探究的な学習等を通じて、郷土への興味・関心を高めていく必要があります。

高校卒業者の在職期間別離職率の推移



香川労働局調査

高校卒業者の離職率は減少傾向にあり、原因としてはジョブサポートティーチャーなどによる個に応じたキャリアカウンセリングによる成果であると考えられることから、引き続きキャリア教育充実事業に取り組む必要があります。

5 安全・安心で、魅力あふれる学校づくり

令和6年度の主な取組み

安全で安心できる学校づくり

①	学校の安全・安心の強化	・学校防災アドバイザーの学校への派遣による防災体制の整備や防災教育の充実 ・警察・道路管理者と連携した各市町の通学路交通安全プログラムの構築推進 ・全県立高校における自転車運転免許制度の実施
②	学校施設等の整備、充実	・施設・設備の老朽化対策 ・特別支援学校の教室不足解消対策 ・東讃地域の統合高校の整備に向けた準備
③	学びのセーフティネットの構築	・幼児、児童、生徒の就学支援 ・三豊市の夜間中学の運営支援

教職員の資質・能力の向上

④	優れた教職員の確保と資質・能力の向上	・教員採用試験における秋募集（R元～）、関西会場での面接試験の実施（R4～） ・「香川県教員等人材育成方針」（R5.1改定）の活用 ・退職教員による「さぬき学びの支援隊」の活用
⑤	学校における働き方改革の推進	・部活動指導員や教員業務支援員等の活用 ・時間外在校等時間の把握、優良取組事例の周知等の啓発 ・公立中学校における休日の部活動の地域移行の実践研究

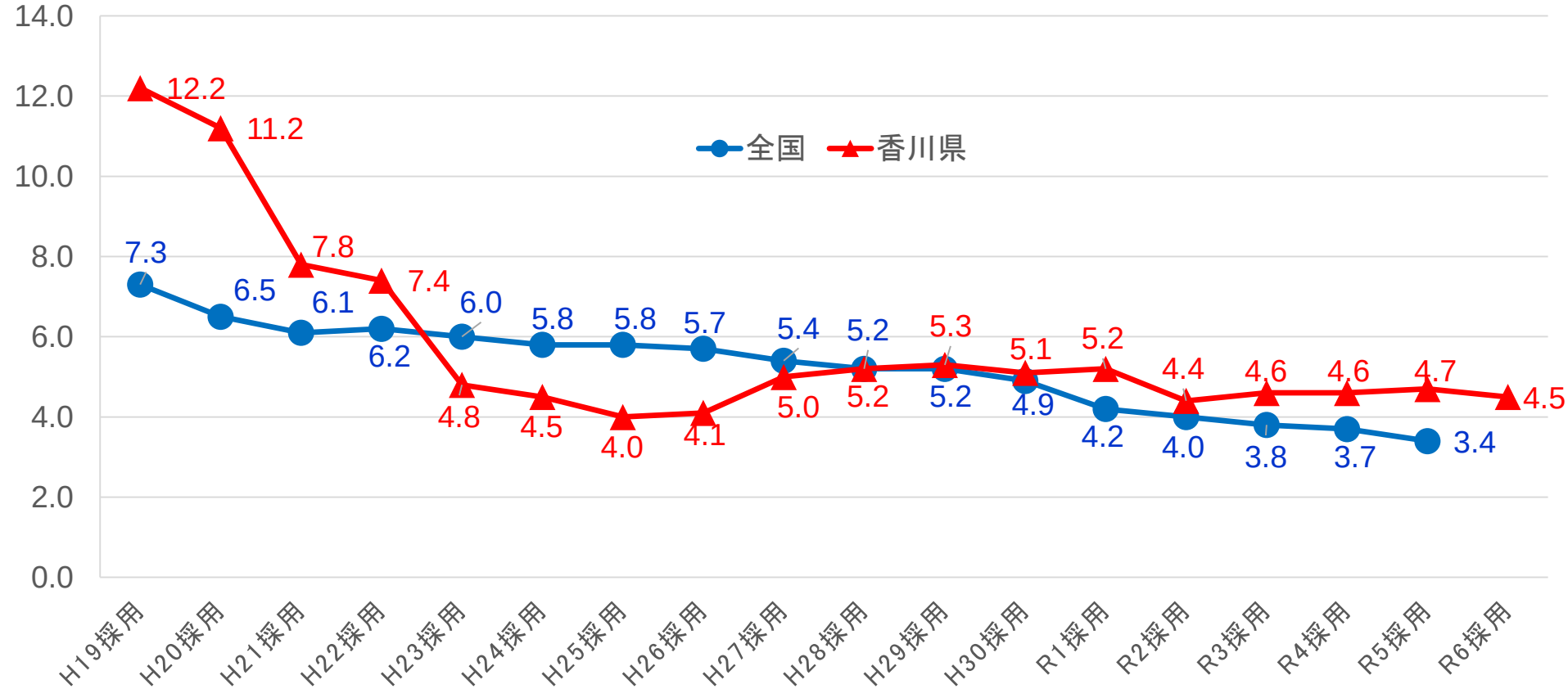
信頼され魅力ある学校づくり

⑥	地域と協働する学校づくりの推進	・学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の理解促進 ・地域住民と連携した行事や授業、学校運営の実施
⑦	学校の特色化・魅力化の推進	・すべての公立高校と県立中学校で全国からの生徒募集を実施 ・「魅力あふれる県立高校推進ビジョン」に基づく県立高校の魅力向上

教員採用試験 全体※の採用倍率の推移

※全体・・・小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計

(倍)



平成23～27年度は全国平均を下回ったものの、その後は一定程度の採用倍率を維持しています。採用倍率は採用者数とも関連することから、質の高い教員を確保するためには4～5倍の水準を維持する必要があり、引き続き、教員定数の確保のほか、広報活動の充実や教員採用試験の見直し等の人材確保対策に取り組む必要があります。

6 家庭や地域での学びの環境づくり

令和6年度の主な取組み

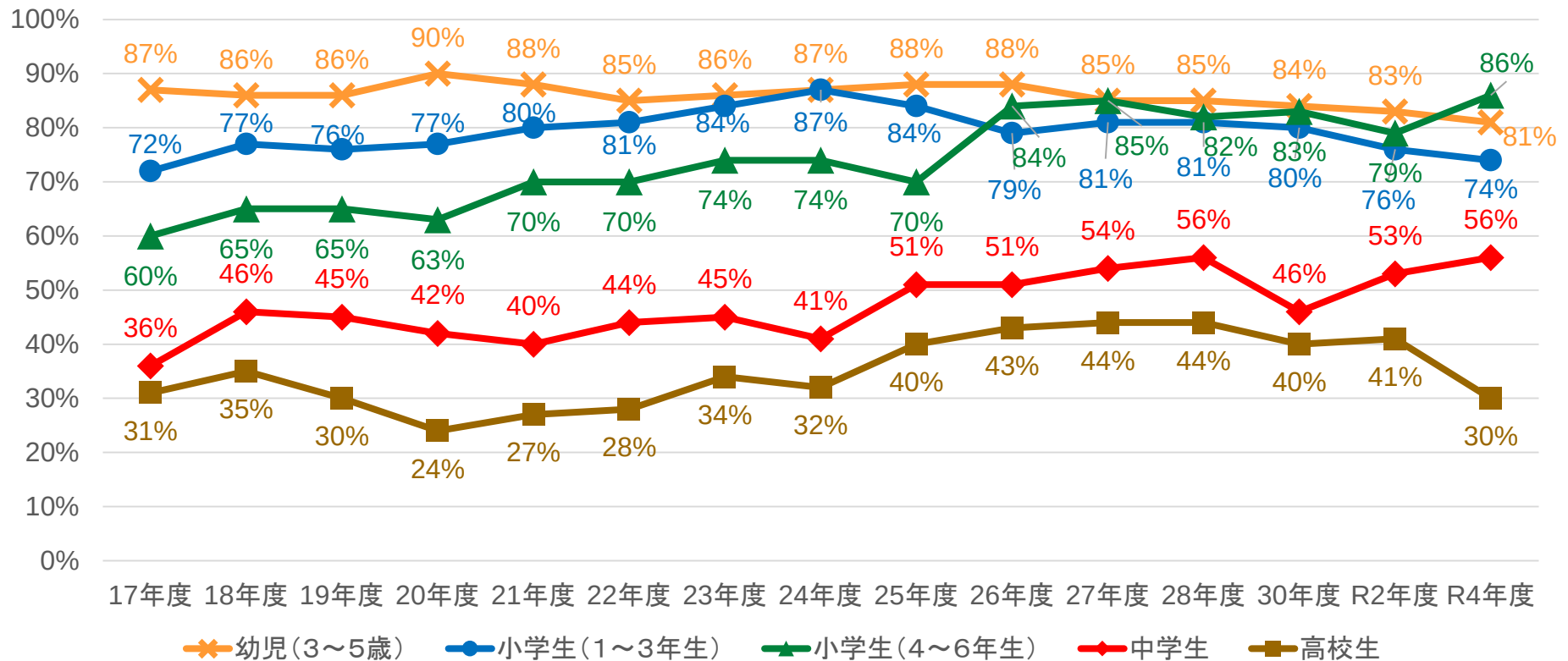
家庭・地域の教育力の向上

- | | | |
|---|-----------|--|
| ① | 家庭の教育力の向上 | <ul style="list-style-type: none">・「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の啓発・家庭教育推進専門員によるワークショップの開催・教育センターにおける様々な媒体による教育相談の実施 |
| ② | 地域の教育力の向上 | <ul style="list-style-type: none">・地域学校協働活動の推進・子どもの体験・交流活動の充実（「体験の風をおこそう」運動推進事業など） |

いつでも学べる環境づくり

- | | | |
|---|------------------|--|
| ③ | 子どもが読書に親しめる環境づくり | <ul style="list-style-type: none">・「親子読み聞かせ教室」の開催や読み聞かせアドバイザーのスキルアップ研修の実施・県立図書館における学校支援文庫の充実や読み聞かせボランティアの育成 |
| ④ | 生涯学べる環境づくり | <ul style="list-style-type: none">・香川大学等と連携した「キャンパス講座」の実施・生涯学習情報提供システム「かがわ学びプラザ するするドットネット」によるイベント等の情報提供 |

家で週1回以上本を読んでいる子どもの割合 (読み聞かせを含む)



香川県教育委員会調査

全ての校種で横ばいで、学校段階が進むにつれて本を読む割合が低くなる傾向にあります。幼少期の読書習慣がその後の読書量に影響を与えることから、引き続き保護者向けの読み聞かせ啓発を進める必要があります。また、中学・高校生の割合が低い理由としては、他の遊びがおもしろいとの意見があることから、中学生への推薦図書の周知や高校生へのビブリオバトル等を通じた読書に触れる機会の充実を図る必要があります。

7 スポーツの振興

令和6年度の主な取組み

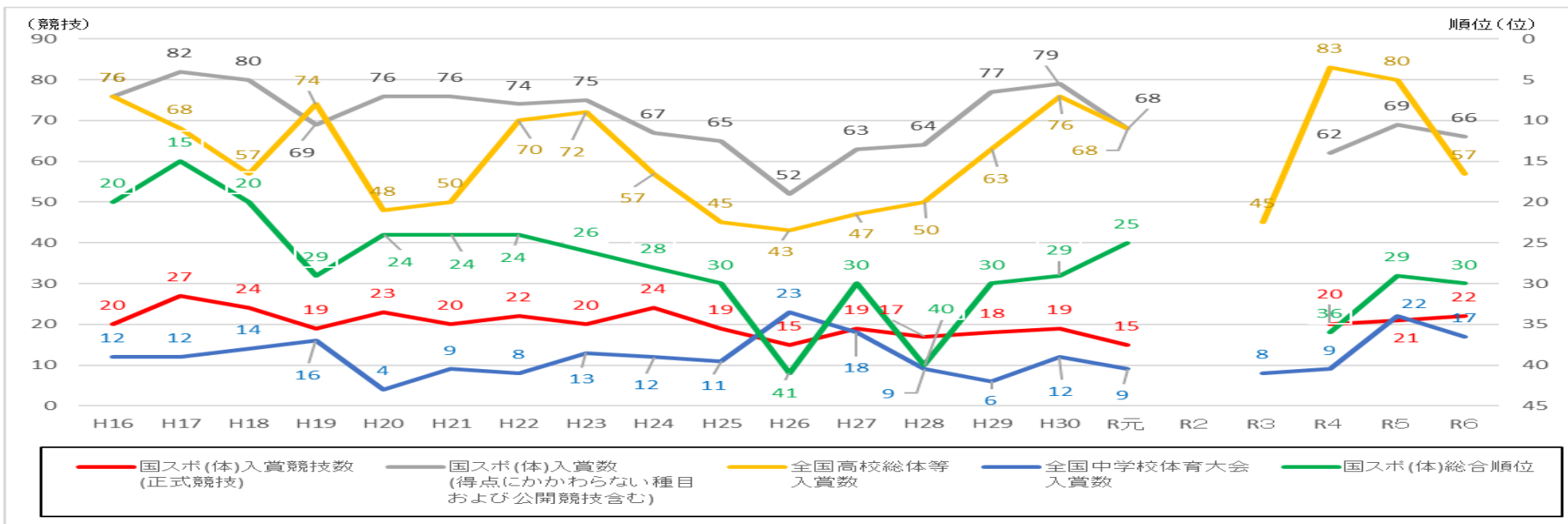
多様なスポーツ環境づくり

①	生涯にわたり スポーツに親しむ ことができる環境 づくり	・ 総合型スポーツクラブの育成支援 ・ 生涯スポーツ指導者や総合型地域スポーツクラブマネージャーの育成 ・ スポーツレクリエーション祭等を通じて、スポーツやレクリエーションを気軽に楽しむ機会の提供 ・ 県立アリーナの整備
---	---------------------------------------	--

スポーツ競技力の向上

③	トップアスリート をめざし、競技力 を高めることが できる環境づくり	・ スーパー讃岐っ子育成事業等によるジュニア期からのタレントの発掘・育成 ・ トップアスリート育成支援事業等によるトップアスリート育成支援
---	---	---

国民体育大会総合順位・入賞競技数等の推移



※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は大会が開催されていない。国体は令和3年度も中止。

アジア競技大会・オリンピック大会での出場者数(香川県出身)

(人)

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
アジア 競技大会	—	—	ドーハ 6	—	—	—	広州 6	—	—	—	仁川 9	—	—	—	ジャカルタ 8	—	—	—	—	杭州 6	—
オリンピック 大会	アテネ 2	—	—	—	北京 0	—	—	—	ロンドン 0	—	—	—	リオデ ジャネイロ 1	—	—	—	—	東京 7	—	—	パリ 3

パリオリンピックでは、目標である3名が出場し、レスリングの日下選手が金メダルを獲得、競泳の花車選手が5位入賞するなど活躍しました。また、ジュニア育成の成果が出ていることから、育成・強化の一貫した指導体制をより充実、継続し発展させていくよう、取組を進める必要があります。

8 文化資源の継承・充実と地域づくりへの積極的な活用 (文化芸術による地域づくり)

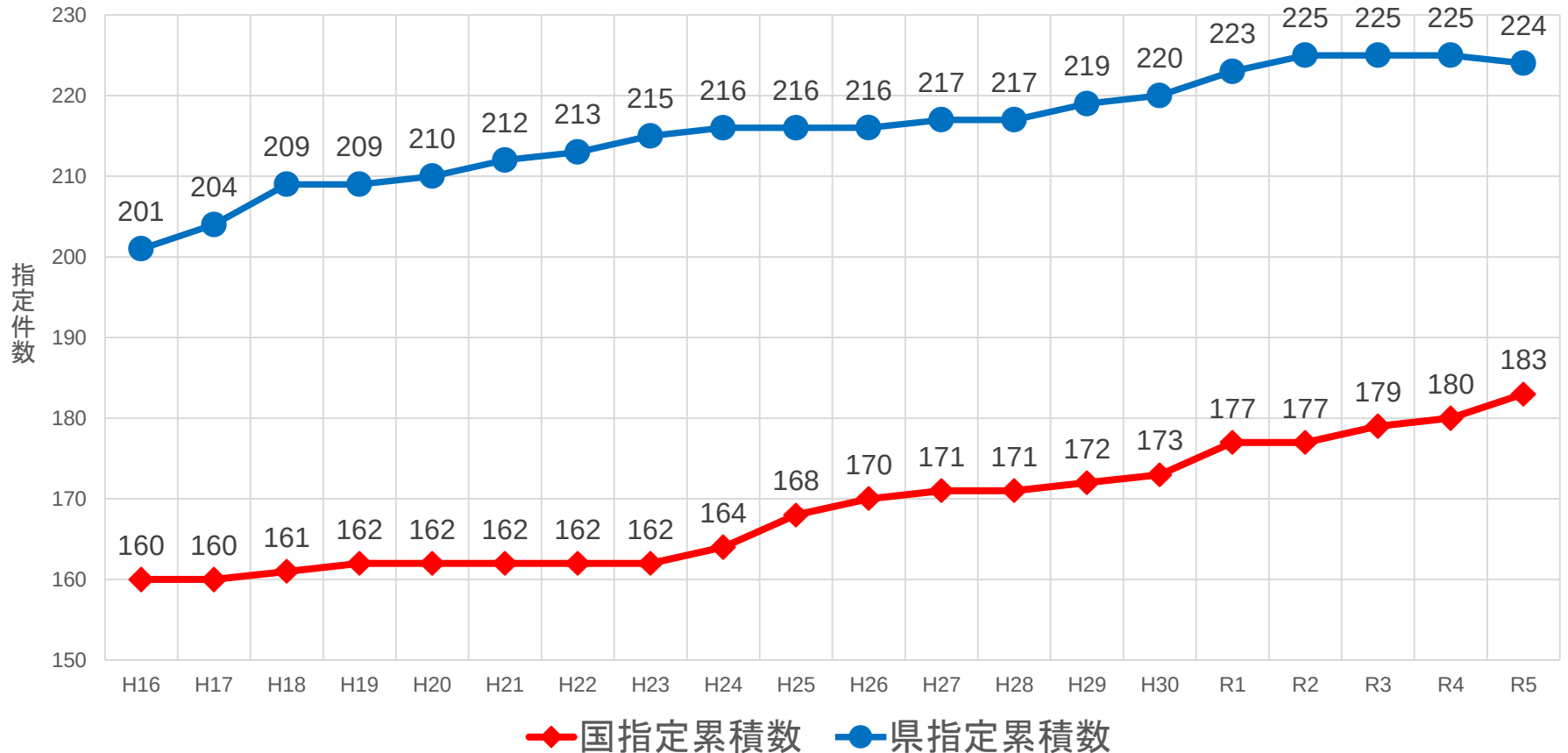
令和6年度の主な取組み

③

文化芸術による
地域づくり

- ・優れた国・県指定の文化財を県民や地域の資産として保存・継承するための修理等
- ・県指定の無形民俗文化財の保存・継承のため、地域で行われる後継者育成等への助成
- ・企業版ふるさと納税等を活用した「かがわの文化財保全・活用応縁プロジェクト」による文化財を活用した地域づくりの推進
- ・県内各地域に所在する文化財の調査を通じて、地域の文化財の魅力を広く共有し、活用することで、地域の活性化につなげる
- ・HP・SNS・広報誌の活用やワークショップ・講座の開催などによる積極的な情報発信

国県指定文化財件数



※R5 国指定:鍋島灯台、小豆島農村歌舞伎、コウノトリ 県指定:小豆島農村歌舞伎の解除

地域の自然・歴史を保全し後世へ伝えようとする認識が引き継がれており、国・県指定文化財の指定件数増につながっています。引き続き、県民がふるさとへの誇りを持ち、愛着を感じるような地域づくりや地域の活性化に文化財を積極的に活用するため、文化財を守りつつ、歴史文化の探求・発信に取り組む必要があります。